

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	山形県		学校名	酒田市 酒田市立東部中学校	
人権課題	インターネットに よる人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	中学2年生・総合的 な学習の時間	時数等	4 時間
目標・人権教育のねらい	・インターネット等のSNS上にある人権課題にはどのようなことがあるのかを知り、どのようにして守っていけばいいのか、SNSとどう付き合っていけばいいのか等、自分にできることを考える機会とする。 ・顔の見えない相手であろうとも、共に認め合い思いやりの気持ちを持てるよう、多様性を理解し尊重する力を育成する。				
実施した内容	・デジタル・シティズンシップに詳しい今度珠美氏による対面での講話と授業を行う。（2 時間） ・上記と同じ講師による、オンラインでの講話と授業を行う。（2 時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） ・デジタルシティズンシップについては、この時だけの指導ではなく、GIGAプロジェクトチームによる年間を通した全体指導を継続していく。 （関係機関との連携） ・一般社団法人 メディア教育研究会 代表理事の今度珠美さんにご協力いただき、授業を実施した。今度さんには、デジタル・シティズンシップに関する指導資料をご教示いただき、上記、GIGAプロジェクトチームによる全体指導にも活かすことができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・ 道徳にて、インターネットトラブルについて学習した。
- ・ 社会科にて、インターネット上での著作権について学習した。

事業成果

知識的側面：「SNS上の人権課題についての知識を身につけ、自分と他者の人権を尊重しようとする」

- ・ 事業開始時：3.6 ⇒ 事業終了間際：4.1 + 0.5 ポイント

※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『SEL/EQ』（自己理解、社会／他者理解、対人関係スキル等の項目）の数値より。最大値5.0

- ・ 事業開始時：3.6 ⇒ 事業終了間際：4.0 + 0.4 ポイント

※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『自己肯定感』（自己受容、自己実現的態度、自己閉鎖性等の項目）の数値より。最大値5.0

価値・態度的側面：「SNSトラブルを無くすために何ができるか考えることがある。」
デジタル・シティズンシップ教育の授業の初めに、これまでどのようなトラブルを経験してきたか、または知っているか、そして、それを無くすためにはどうしたらいいかを出し合った時には、半分くらいの生徒が解決策を持っていなかった。しかし、合計4時間のデジタル・シティズンシップ教育の授業を受けた後は、ほとんどの生徒が対処方法について理解をすることができた。

技能的側面：「SNSでのトラブルに対応することができる。」

- 事業開始時：5件 ⇒ 事業終了間際 1件

※県いじめアンケートの件数より（前期調査と後期調査）

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	山形県		学校名	酒田市 酒田市立東部中学校	
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	全学年・学校行事等	時数等	1 2 時間
目標・人権教育のねらい	・多様な異年齢集団の人たちと協働し、誰もが楽しめる運動会・文化祭を自分たちの手で創りあげる意識を育てる。 ・運動や表現が得意だったり逆に不得手だったりする仲間の思いに寄り添い、最上位目標達成のための合意形成・意思決定経験を通して、多様性を尊重する態度を養う				
実施した内容	・運動会や文化祭の実施にあたっては、生徒実行委員会で、運動（表現活動）が得意な人もそうでない人も楽しめる種目（表現活動）を話し合い、全校生徒で合意形成を図ったうえで、決める。（2 時間） ・運動会は異学年、文化祭は学年オープンで編成し、多様な他者との協働活動を行う。（1 0 時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） ・外部から見た見栄えを重視することなく、子どもたちが自分たちで創りあげたという実感がもてるよう、教師はできる限り口出しすることなく、支援にまわるようにした。 ・合意形成の方法、多様性の尊重、民主主義など、生徒の人権意識を高める講話を節ごとの校長講話に計画的に取り入れた。 （外部団体との連携） ・非認知能力アセスメント「EdvPath」（株式会社EdvFuture、EdTech実証事業）を運動会・文化祭の振り返りを行う時間に実施し、自分の成長を自分で感じることができるようにした。 ・文化祭については地域の文化祭の一環として実施し、一般開放して地域住民の皆さんからも見て頂けるようにした。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間で「志授業」を年3回実施し、地域で活躍している様々な先輩方の生き方を学んだ。『自分らしく生きる』というテーマで多様な生き方指導を行った。

事業成果

知識的側面：「自分らしさとは何かをとらえ、自分の生き方を考えようとする。多様な他者と共に生きるための知識を身につける」

- ・事業開始時：3.6 ⇒事業終了間際：4.1 + 0.5 ポイント
※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『SEL/EQ』（自己理解、社会／他者理解、対人関係スキル等の項目）の数値より。最大値5.0

- ・事業開始時：3.6 ⇒事業終了間際：4.0 + 0.4 ポイント
※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『自己肯定感』（自己受容、自己実現的態度、自己閉鎖性等の項目）の数値より。最大値5.0

価値・態度的側面：

- ・「自分と違う意見について考えることは楽しい。」
事業開始時：3.1 ⇒事業終了間際：3.3 ※酒田市「根の力調査」最大4.0
- ・「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う。」
事業開始時：3.7 ⇒事業終了間際：3.7 ※酒田市「根の力調査」最大4.0

技能的側面：「人が困っているときは進んで助けることができる。」

- 事業開始時：3.3 ⇒事業終了間際：3.4 ※酒田市「根の力調査」最大4.0

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

酒田市 酒田市立東部中学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等中学2年生・総合的
な学習の時間

時数等

2 時間

目標・人権教
育のねらい

- ・ L G B T q の人たちへの偏見や思い込みを取り除き、性的少数者の人権を尊重し、共に生きる意識を育てる。
- ・ L G B T q を取り巻く課題や、L G B T q の人たちを支援している機関の取り組みについて理解を深める。

実施した内容

- ・ L G B T q に対する理解を深めるために、人権擁護委員の方から L G B T q の人たちに対する課題や取り巻く状況などについて話を聞く。（2 時間）

工夫した点

- （指導上の工夫）
- ・ 全校では、道德の時間を使って、多様性の尊重を価値項目とした学びを行った。
 - ・ 多様性の尊重を目的とした本校の標準服の価値については、校則について継続協議している生徒総会や学級討議の中で、折に触れ、全校生徒で共有している。
- （外部団体との連携）
- ・ 人権擁護委員で L G B T q に詳しい遠田健一氏に講話を実施して頂いた。
 - ・ 東部学区小中一貫教育の目標「自律・尊重・創造」が達成できるよう、小中9年間で3つのブロックに分けて、人を大切にする力＝多様性の尊重の育成に向けて、学区全体で取り組んでいる。

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・特別活動にて、生徒総会に向けた学級討議を行った。多様性の尊重のために標準服が採用され、それに伴い校則も継続して見直しをしているため、性的少数者を取り残すことなく校則見直しが進むような合意形成となるよう指導した。

事業成果

知識的側面：「L G B T q とは何かを理解し、共生社会のあり方を知る」

- ・事業開始時：3. 6 ⇒事業終了間際：4. 1 + 0. 5 ポイント

※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『SEL/EQ』（自己理解、社会／他者理解、対人関係スキル等の項目）の数値より。最大値 5. 0

- ・事業開始時：3. 6 ⇒事業終了間際：4. 0 + 0. 4 ポイント

※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『自己肯定感』（自己受容、自己実現的態度、自己閉鎖性等の項目）の数値より。最大値 5. 0

価値・態度的側面：

- ・「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う。」

事業開始時：3. 7 ⇒事業終了間際：3. 7 ※酒田市「根の力調査」最大 4. 0

技能的側面：「人が困っているときは進んで助けることができる。」

事業開始時：3. 3 ⇒事業終了間際：3. 4 ※酒田市「根の力調査」最大 4. 0

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	山形県		学校名	酒田市 酒田市立東部中学校	
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	中学2年生・英語	時数等	4時間
目標・人権教育のねらい	・外国人への偏見や思い込みを取り除き、外国人の人権を尊重し、共に生きる意識を育てる。 ・外国への理解を深め、共に世界を作っていく「地球人」としての意識を高める。				
実施した内容	・台中市立烏日中学校との交流会に向けて、英語で本校や本地域を紹介するプレゼンを準備する。（2時間） ・烏日中学校の生徒と一緒に授業を受けたり給食を食べたり、お互いの国のことを紹介し合ったりして、交流を深める。（2時間）				
工夫した点	（指導上の工夫） ・お互いに、母国語をメインとした会話になるので、英語を使って交流ができるよう、事前指導を十分に行う。 ・週に3回程度本校に勤務しているALTに指導を受けて、英語でのプレゼン作りを行った。 （外部団体との連携） ・本校と連携協定を結んでいる酒田DMOを連絡調整役として、烏日中学校とのやりとりがスムーズにできるよう協力をして頂いた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・英語にて、英語を言語として学ぶことその他、外国への興味がわくような授業づくりを進めた。

事業成果

知識的側面：「外国人との交流を通して、外国の文化や環境を知る」

- ・事業開始時：3.6 ⇒事業終了間際：4.1 + 0.5 ポイント

※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『SEL/EQ』（自己理解、社会／他者理解、対人関係スキル等の項目）の数値より。最大値5.0

- ・事業開始時：3.6 ⇒事業終了間際：4.0 + 0.4 ポイント

※非認知能力アセスメント「EdvPath」の『自己肯定感』（自己受容、自己実現的態度、自己閉鎖性等の項目）の数値より。最大値5.0

価値・態度的側面：「世界の人たちと協力して世界を作っていくために、自分には何ができるか考えることがある。」

外国人に接する機会はほとんどなく、台湾交流の際も初めはほとんど会話ができない状態だったが、時間が経つにつれ、コミュニケーションを取ろうとする姿が見えるようになった。一人の人として尊重しようとする様子が見てとれた。

技能的側面：「英語を使ってコミュニケーションすることを楽しむことができる。」

外国の人と英語で話す経験をすることで、外国語を使ってコミュニケーションしてみたいと感じる生徒が出てきた。